

第 31 回 小豆島町総合教育会議

【日時・場所】

- 開催日時 令和 8 年 5 月 29 日（金） 午後 3 時～午後 3 時 25 分
- 開催場所 役場本館 3 階 大会議室
- 出席者 大江町長、坂東教育長、真砂委員、大山委員、照下委員
- 同席者 **【町職員】**
副町長、古郷総務課長、小野こども教育課長、黒島こども教育課係長
【教育関係者】
住野小豆島中央高校校長、武井池田小学校校長、林安田小学校校長、濱元苗羽小学校校長、進藤こどもセンターセンター長、三好星城・安田・苗羽幼稚園園長、山口内海保育所所長、慈氏せいけんじこども園園長
- 傍聴者 14 名
- 事務局 3 名

【内 容】

【古郷課長】

失礼いたします。

脊尾委員さんが今日、所用のため欠席ということですので、皆さんおそろいになりましたので、ただいまから小豆島町総合教育会議を開催いたします。

議事までの進行を務めます、総務課長の古郷でございます。よろしく申し上げます。

総合教育会議については、本日が 31 回目の開催となります。会議は構成員であります町長、教育長、教育委員の 6 名で行うこととしています。

音響の関係で、マイク 2 本同時にスイッチを入れますと、音声が出にくい状況になりますので、発言後につきましてはマイクのスイッチを切るようお願いできればと思います。

それでは、小豆島町総合教育会議規則第 4 条第 1 項の規定により、総合教育会議は町長が招集し、議長となりますことから、この後の議事進行については、大江町長をお願いをします。

【大江町長】

本日は、大変お忙しい中、総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。

さる 3 月 17 日に開催しました第 30 回総合教育会議におきまして、新たに認定こども園を建設する候補地として、苗羽小学校跡地と新小学校である内海小学校併設の 2 か所に選定していただきました。

さて本日は、前回の会議より、より詳しく各候補地のメリット・デメリットについてご説明させていただき、ご協議いただきたく、本日の会を開催させていただきました。

それでは、早速ですが、資料に沿いまして事務局から説明をお願いします。

【黒島係長】

事務局から資料の説明をさせていただきます。

まず、1ページをご覧ください。

これまで2回、総合教育会議を開催いたしました。内海地区の公立幼稚園・保育所を利用する子どもの減少と、施設の老朽化により、新しく認定こども園の建設を行うことが決定しました。

2ページをご覧ください。

前回の会議で「苗羽小学校跡地」と「内海小学校併設」の2つの候補地に絞られました。こちらの地図は、内海地区の教育施設の位置図になります。「苗羽小学校跡地」と「内海小学校併設」には赤マルを入れております。

3ページをご覧ください。

こちらは、建設場所のイメージです。まず、「苗羽小学校跡地」の場合です。苗羽小学校の中でも、地盤高が高い校舎部分を解体し、そちらへ認定こども園を新設するイメージです。体育館につきましては、比較的新しいため、そのまま残し利用します。

4ページをご覧ください。

「内海小学校併設」の場合のイメージ図です。新小学校の芝生グラウンド部分に新設するイメージとなります。

5ページをご覧ください。

今までの会議でもメリット・デメリットをお伝えしましたが、再度検討をし直しました。まず、「苗羽小学校跡地」のメリットです。

①内海地区の教育・保育施設が1つの地域に偏って集中することを避けることにより、保護者の送迎距離の公平性など利便性格差を解消することができ、地域の活性化にもつながります。

②苗羽小学校近くの県道などの改良がすでに終わっており送迎もしやすいこと。

③小学校跡地の有効活用が図られ、体育館が比較的新しいことから再利用でき、建設費用を抑えることができます。

④警察署が近いため、防犯対策や災害時には協力を得やすい。

ことが挙げられます。

デメリットです。

①地盤高が低いことですが、こちらは運動場で約10cm浸水する予測となっております。

②津波の際の避難については、乳幼児を連れての避難となるため、万全の対策を講じる必要があります。

③内海小学校との交流について、スクールバスの手配を行いバスでの移動となるため、少し不便になります。

④内海地区のやや東部に位置するため、星城校区や安田校区の一部の保護者は送迎が不便になります。

続いて、「内海小学校併設」のメリットです。

①地盤高が高く、津波の心配が少ないこと。

- ②内海小学校と隣接するため、交流や連携がとりやすく、小学校へのなめらかな接続ができます。子どもたちも小学校の生活や見通しを持ちやすくなります。
- ③せいけんじこども園やマリアの園と近いので、交流がしやすくなります。
- ④兄弟が内海放課後児童クラブを利用している場合、保護者の送迎がしやすくなります。

続いてデメリットです。

- ①内海地区の教育・保育施設が集中してしまうので、小学校登校時の交通安全対策や近隣住民への影響が大きくなります。
- ②今後予定している道路工事について、認定こども園を先に建設するとなると着工に遅れが生じます。
- ③草壁地区以外に教育・保育施設がなくなるため、地域とのつながりが希薄になり、地域との関わりに影響を与えることが懸念されます。
- ④完成後の内海小学校北グランド内に計画するため、進入路を含め、建設計画に制約を受けます。

以上が、メリット・デメリットになります。

事務局からの説明は以上です。ご協議のほどよろしくお願いいたします。

【大江町長】

はいそれでは、今、事務局から説明がありましたけれども、今後のあり方について真砂委員から、順次、ご意見をいただけますでしょうか。

【真砂委員】

私は苗羽小学校跡地が最初はいいと思っていました。

それはやはり、ここのメリットの送迎距離の公平性。せいけんじの方ですと、そっちに近い方はせいけんじの方に行けるし、苗羽に近い方は苗羽に行けるということで、そういう意味で、公平に通いやすいということで、いいと思っておりました。

ところがこの資料、その利用者数を見たときに、例えば0歳から2歳ぐらいの子どもについては、保護者の送迎が絶対に大切だし、そういうことで保護者がそれを考えて、内海保育所の方に行っていたのだったらいいんですけど、そうではなくてせいけんじがいっぱいだから、そういう人が内海保育所へたくさん行っているというのであったら、ちょっと話が違うかなあということです。0歳から2歳ぐらいの保護者の方が、どうしてこの内海保育所の方に行ったのかっていうのが、もう1つはっきりわからないのですが、近いからっていう理由であれば、私は苗羽小学校跡地でいいと思うんですけど、そうじゃない理由で行っているというふうなことが多いんだったら、これはちょっと考えもんなあと思っています。

そのあたりもあり、大きくは苗羽の方がいいと思うんですけど、これから子どもの数がすごく減ってくる。そういう状況になったときに、せいけんじの方はあんまり減らないで苗羽の方で減った人数をカバーするような形で減っていくとなると、これも困ることになるかなあという点があります。

そういう意味で先ほど言った、0歳から2歳ぐらいの保護者がどうして内海保育所に行っているのかという意見がしっかりと聞けていたら、私も、苗羽がいいと言いたいんです

けれど、そこがはっきりしないので、どちらかといえば苗羽というふうな気持ちです。以上です。

【大山委員】

失礼します。私は、前回から統合小学校跡地に併設ということでお話をさせていただいておるんですけれども、今回も変わらず、併設というふうに思っています。

理由については、前回の、この会議が終わった後でもう1回資料をじっくりと見なおしてみ、やっぱり建設用地を決めるのに、何が一番大事なのかなっていうことを考えたときに、やっぱり安心安全。そこがやっぱり一番大事なのではないかなという結論に至ったわけです。

安全安心もいろんな安全安心があると思うんですけれども、交通安全だったりとか不審者対応だったりとかもいろいろあると思うんですけれども、やっぱり人の力でどうしてもできないやっぱり自然災害、これにやっぱり対応できるっていうことがやっぱり一番大事なのかなと思います。

今日の資料にもあるんですけれどもやっぱり、地震のときに津波の心配があるということ。それを考えたときに、今現在、いろんなところで災害起きているんですけれども想定外の災害っていうものすごくたくさん起きている。

で、やっぱり想定外のことが起こるぞって。それを想定しておくことがものすごくやっぱり大事になってくるのではないかなと思っています。

できた後でしまったではやっぱり遅いと思うので、そこをしっかりとやっぱり考えておくということで、実際に、地震が起こったときに、併設の場合は高台に避難。高台にあるので避難する必要ないと思うんですけれども、苗羽の場合はやっぱり高台への避難というのを考えなければいけないのかなというふうに思っています。

そうなったときに、0歳から5歳までの子どもを預かっている、4歳5歳の子どもはひょっとしたら歩いて避難ができるかもわかりませんが、0歳1歳の子どもを連れて避難をする。私も1歳半の孫がおりますけども10キロ以上ありますので、やっぱり移動するとなったら1人が1人。そういうことが本当に可能なかどうか。

これちょっと現場の先生方にもお伺いし、本当にそれが現実的なのかどうかというふうなところを、やっぱりそういう意見も必要なんではないかなということと、それから、津波についても、これも私は素人なので、素人の見方で、一応ネットも見たりとか、AIにも聞いてみたんですけれども、やっぱり専門家にきちんと、聞いてみる。大学の先生であるとか、防災センターであるとか、避難とかについては防災アドバイザーの方もいると思うので、そういう方にきちんと聞いた上で、苗羽にするのであれば、やっぱりそういうことは絶対必要なかなというふうに思います。

その上で私自身、やっぱりメリットの中にもあったんですけど、やっぱり幼少の連携ですね、今、小豆島町の子どもたちが抱える課題をやっぱり解決するためには、やっぱりしっかりと連携するっていう、町の資料にもありましたけど、滑らかな接続っていうふうなところが、やっぱり実現できるように、できたらいいのかなということで、併設がいいのではないかなと思います。以上です。

【照下委員】

住んでよい町、子育てしやすい町、そして、働きやすい町をPRするのに、私は苗羽小学校跡地に認定こども園を持ってきたらいいのではないかなと思っております。

1つはこのメリットに書かれてもおりますが、警察署が近くにあって治安面でもいいということと、また近くにパートで働きたいなと思っている保護者の皆さんが働きやすい職場が、近くに多いということも挙げられると思います。

それで道幅も広いので、保護者の方の送り迎えもしやすいということも挙げられるかなと思います。

それで私は苗羽小学校跡地に、こども園を持ってきたらいいなと思っております。以上です。

【坂東教育長】

こども園の建設場所の比較検討については資料にある通り主なメリット、デメリットはその通りだと思いますが、大きく2つの視点が重要だと思います。

1点目は先ほど大山委員が言われたように学校施設等の設置場所については、安全、安心であることが第1。2点目の視点として保護者や地域住民の視点から、学校施設等の公共施設の設置場所については、やっぱり町内の状況、適正にバランスよく、偏ることなく配置するという視点も必要だと思います。

1点目の安全安心の面では地震津波の点からすると、内海小学校に併設する案になると思うんですが、資料にもある通り併設した場合、内海小学校周辺道路において、こども園の送迎車はかなり増加すると思いますので、日々の小学校登校時の交通安全対策が大きな課題になると思っています。

2点目の適正な配置という視点では、内海地区の教育施設の偏在化を避けるということから、こども園も地域の拠点となる施設であること、また保護者にとっても送迎距離の公平性などの利便性格差を解消できるということを考えると、苗羽小学校跡地が良いと思っています。

もう1点、施設計画の面では、現在の内海小学校はこども園を併設することを想定しておらず、今の建設を進めています。北グラウンドの広さであれば、建設することは可能なんですけれども、今からこども園を計画するということは、進入道路を含めて施設の配置とかなり制約を受けると思います。

苗羽小学校跡地では、体育館を残して利用が可能ということ。あと、園舎、運動場、駐車場などの配置、動線等について、1から自由に計画できるということで、こども園の施設全体として、よりよい施設にすることは可能というふうに思います。

以上のことから、総合的に見たら、苗羽小学校跡地がよいと私は考えています。

もう1点、脊尾委員が欠席されていますので、今週火曜日に開催した教育委員会で脊尾委員の意見を聞いています。脊尾委員は内海小学校に併設がいいということでした。理由としては、安全安心というところと、保護者等の送迎とかのしやすさの視点から、脊尾委員は内海小学校に併設の方がいいという意見でございました。以上です。

【大江町長】

ありがとうございました。

1点だけ事務局に確認したいんですけど、0・1・2歳児が内海保育所に行っている理由

っていうのは、どういったことなんですかね。

【黒島係長】

すべてのお子様を持つ保護者の方にお伺いしているわけではないんですけれども、申込書類の提出をしていただいている際に理由を書いているところがあるんですけど、自宅から近い、職場から近いという意見が多くて、以前にもアンケート調査をさせてもらっていて前回の資料にも出させてもらっているんですけど、保護者の方が何を求めているかっていうと、やっぱり一番がご自宅から近いっていうことを選ばれているので、おそらくそういう理由じゃないかなというふうには思っております。

【大江町長】

真砂委員よろしいですか。

【真砂委員】

やはり遠いところに行くより近くに行きたいという、保護者の小さい子への配慮ということを考えて、また偏りなく苗羽地区にもたくさん若い人が住めるような状況にもなっていくかなあと思うので、苗羽の方が、そういう意味でいいのではないかなと思います。

いろいろ、安全面ではありますけれど、苗羽の方でもある程度最低限はクリアできていると思います。以上です。

【大江町長】

はい、それから大山委員がおっしゃった専門家の意見は、今日どうこうなるものではないので、また改めて調べてご報告させていただきたいと思います。

その上で私自身の意見を申し上げますと、これ元々平成 29 年ですかね。統合をするという話になったときに、中学校が小高のところに行って、ここが小学校になって、こども園は苗羽小学校跡地に行くということで一旦決まっていたんですね。で、設計までした経緯があります。

そういった経緯を踏まえながら、今現在のもう町内のこの内海の中心部のことを見ますと、教育施設は草壁にどんどん集約されていって、西村は若い方がどんどん移り住んで、安田は商業施設がもともと集積していて、坂手はターミナルができたり、ジャンボフェリーが復活したりして、若い子がどんどん移住してきていたりしていますので、全体を見渡してみると、やっぱりちょっと馬木、苗羽のところに、ある程度公共施設があって人が満遍なく行き交うような、まちづくりが必要なんじゃないかなと思っています。

現在の津波想定ということは、専門家に聞いてみないとわかりませんが、安全マージンをおそらく見ていると思うので、その辺りも含めて専門家の意見はお聞きしたいと思いますけれども。

私自身は、その体育館を有効活用できることや、自由に絵が描いていける、そういったことから、やっぱり苗羽小学校跡地が適しているのではないかなというふうに思っております。

先ほど事務局から説明があったように、従来から内海保育所があったエリアですし、皆さん、ご利用する方も多かった訳ですから、今後のまちづくり、この中心部が満遍なく元

気になっていく。そういうことを考えたときに、苗羽小学校跡地がいいのではないかなと私自身も思っております。

脊尾委員の話は先ほど教育長からお話がありましたけど、今、大体言うと、4人が苗羽小学校跡地で、大山委員が統合小学校と併設と、脊尾さんがその中間ぐらい。ということなので、この議論をずっと続けていてもですね、なかなか結論が出ないような状況になっております。

で、1つは専門家の意見がやっぱり必要だろうと。大山委員がおっしゃるように本当にここで南海トラフの地震が来たときには安全が確保できるのか。地盤高の問題、それから、避難誘導の問題、それは確保できるのか。

当然ながら警察署があって、警察署が非常に高くなっていますので、万が一のときはここへ逃げて行くということもできるでしょうけれども、そういった現実的な問題、それから、保育所の先生がどう思っているのかとか、そういったことを改めて聞かせていただいて、最終決定はしたいと思いますが、今現状で、4名が苗羽小学校跡地がいいんじゃないかということなので、基本的には苗羽小学校を第1候補として、専門家の意見とか聞いて決定していくということで、今日の結論としては、そこまでしかちょっといけないなという感じですので、これから専門家の意見をしっかり聞いて、津波で今の地盤高で大丈夫ですよ。それは当然ながら確約はできないことでしょうけど、どれぐらいリスクが高いのかということをしっかり確認した上で、決めていくということによろしいですかね。

【大山委員】

アンケートの結果を提示していただいたんですけども、その中に保護者の意見として、安全安心っていうのはないんです。アンケートの結果の中に、おそらく、もうそれは当然のことであって当たり前、安心安全があってそれ以外の希望っていう形で出ているのかなあというふうな感じで私は見せてもらったので、そのあたりをやっぱりきちんと行政としてもやっていって、調べてというか、よく聞いてから進めていってほしいなと思えます。

【大江町長】

他に特にご意見ないですか。

では、現状として4人は苗羽小学校跡地がいいだろうというご意見ですので、それを第1候補として、大山先生が言われたように、専門家の意見を聞いた上で、再度、次回で最終決定という形にしたいと思えますので、よろしくお願ひします。

今日のところは以上で。それでは本日の総合教育会議、これで終わりにしたいと思えます。ありがとうございました。

【古郷課長】

ありがとうございました。以上をもちまして、第31回の小豆島町総合教育会議を閉会といたします。お疲れ様でした。